

経済・金融 フラッシュ

7月日銀決定会合：

景況感 3ヶ月連続上方修正、4月展望レポートに沿って推移しているとの評価、企業支援を12月末まで延長

経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

1. 3ヶ月連続での景況感の上方修正、4月展望レポートに沿って推移しているとの評価

日銀は15日の金融政策決定会合で、景気の現状判断を6月の「大幅に悪化した後、下げ止まりつつある」から「下げ止まっている」に上方修正した。これで上方修正は3ヶ月連続となる。

生産や6月調査短観で下げ止まりの動きが見られており、日銀の判断に違和感はない。

日銀 景気判断・見通し(黄色は上方修正を示す)

	現状
2009年7月	景気は下げ止まっている。
2009年6月	景気は大幅に悪化したあとに下げ止まりつつある。
2009年5月	景気は悪化を続けているが、内外の在庫調整の進捗を背景に、輸出や生産は下げ止まりつつある。
2009年4月	
2009年3月	
2009年2月	
2009年1月	景気は大幅に悪化している。
2008年12月	景気は悪化している。
2008年11月	景気は、既往のエネルギー・原材料価格高の影響や輸出の減少などから、停滞色が強まっている。
2008年10月	景気は、エネルギー・原材料価格高の影響や輸出の増勢鈍化が続いていることなどから、停滞してい
2008年9月	
2008年8月	景気は、エネルギー・原材料価格高や輸出の増勢鈍化などを背景に、停滞している
2008年7月	景気は、エネルギー・原材料価格高の影響などから、さらに減速している

また今回4月公表の展望レポートの中間評価が示され、「国内経済は09年度後半以降、緩やかに持ち直す」とした4月時点の見通しについて、「おおむね見通しに沿って推移すると予想される」と評価した。

ただし「景気の下ぶれリスクが高い状況が続いている」として、09年度の実質GDPの成長率見通しは、4月時点の▲3.1%予想を▲3.4%に下方修正。10年度の成長率見通しも4月時点の+1.2%を+1.0%に下方修正している。

▽政策委員の大勢見通し

——対前年度比、%。なお、< >内は政策委員見通しの中央値。

	実質GDP	国内企業物価指数	消費者物価指数 (除く生鮮食品)
2009年度	-3.7~-3.0 <-3.4>	-6.0~-5.8 <-5.9>	-1.5~-1.2 <-1.3>
4月時点の見通し	-3.7~-3.0 <-3.1>	-7.6~-6.9 <-7.5>	-1.6~-1.4 <-1.5>
2010年度	+0.6~+1.1 <+1.0>	-2.1~-1.5 <-2.1>	-1.2~-0.7 <-1.0>
4月時点の見通し	+0.8~+1.5 <+1.2>	-2.4~-1.4 <-1.8>	-1.1~-0.8 <-1.0>

2. 企業資金繰り支援は12月末まで延長

今回の決定会合で9月末までの時限措置となっていたCP買い入れオペ、社債買い入れオペ、企業金融支援特別オペをそれぞれ12月31日まで延長することを決定した。

そのほか、民間企業債務の適格担保としての格付け要件の緩和とABCPの適格担保要件の緩和期限を12月31日から来年3月31日に、補完当座預金制度の期限を10月15日から来年1月15日に、米ドル資金供給オペの期限も10月30日から来年2月1日に、それぞれ延長することも決定している。

期限切れ直前ではなく、早めに対応した格好だ。先行きの不安感を払拭する措置であり、一定の評価ができるだろう。

白川総裁は会見で再延長について「12月先行きの金融情勢は不確実性が高く、必要と判断すれば再延長する」とする一方で、「企業金融の改善が続けば終了を考えるのが適当」とも述べている。(現時点で筆者は規模の縮小はあっても12月の完全終了はないと見ているが)3ヶ月間に期限延長が短縮化されたことや、上記総裁の発言は、市場の思惑をある一方方向に偏らせず、市場機能をできるだけ残したいという意図があるだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。